

# 井小だより

浜松市立井伊谷小学校

学校だより 5月号

## “自分から！”を合言葉に成長を後押しします

4月のスタートから連休も終わり、令和3年度のスタートから約1か月が過ぎました。学校生活にも慣れてきた頃かと思えます。

5月の会礼では、“自分から！”というテーマで子供たちにお話をさせていただきました。学校生活は、学習や運動、友達づくりや協働による活動など多岐にわたり、大人が社会生活を送っているように子供たちも学校という社会で生活を送り、大人になっていく為の基礎・基本を体験的に学んでいます。子供たちは、教育活動で「人、もの、こと」とかかわる体験がある度に「好きな人、好きなもの、好きなこと」が増えていきます。このことで変化していく未来に適応できる力が育まれていくことを期待しています。そして、そのかわりの行動が、5月の会礼で話題にした“自分から”であれば、一人一人が自ら幸せを築いていこうとする姿勢が備わってくれるだろうと願っています。

会礼では、“自分から”の一步目の行動は、「自分からあいさつ！」と子供たちに呼びかけました。あいさつは、人と人がかかわっていく最初の一步の行動として、その大切さがあることに気付けるように、あいさつについて子供たちと一緒に考えてみました。子供たちは、あいさつをして良かった体験を次々に言葉にしていました。

「自分からあいさつしたら、友だちが増えたこと」

「自分からあいさつしたら、気持ち良かったこと」

「自分からあいさつしたら、仲直りができたこと」

「自分からあいさつしたら、褒められてうれしかったこと」 など

さて最近、私が嬉しかったあいさつ以外の“自分から”の行動を紹介します。それは、6年生の児童会が「シトラスリボン運動」を“自分たちから”始めたことです。ニュースや新聞でも御存知の方も多いと思いますが、新型コロナウイルス感染者らへの差別や偏見をなくすため、浜松市は、昨年8月26日に差別防止啓発活動「シトラスリボンプロジェクト」に参加すると表明しました。このシトラスリボンの3つの輪は、「地域・家庭・職場（学校）」を表すとしています。シトラスリボンを身に着けたり、表示したりすることで、誰に対しても差別のない思いやりの心に向けられる意識をアピールしていくというものです。このプロジェクトは愛媛県の有志が立ち上げ、全国に広がりを見せています。このプロジェクトは、感染者やその家族、治療に当たる医療従事者らへの差別や偏見に反対する意思を示す意味が込められています。

この活動を知った井伊谷小学校6年生は、シトラスリボンを自分たちで手作りして校内で掲示したり、配布したりする啓発活動をスタートしました。井伊谷小学校6年生を中心に優しさのネットワークが広がることを応援していきたいと思っておりますので、地域や保護者の皆様も温かく見守ってくださいますようお願い申し上げます。

<校長 山本俊行>



【心を込めて作りました】